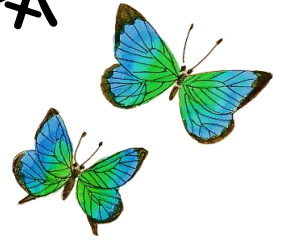


図書館員が選ぶおすすめの本

～幼児向け（3,4,5歳）～



絵本の読み聞かせは、お子さんの心や言葉を育てます。3歳くらいになるとストーリーのあるお話もわかるようになり、絵本読み聞かせ黄金期！ともいえます。寝る前は読み聞かせをするなど、親子で本を楽しむ時間をぜひ作ってください。

「おおきなかぶ ロシアの昔話」

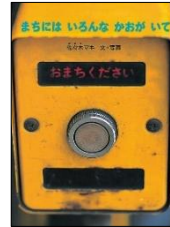
A.トルストイ // 再話 内田莉莎子 // 訳 佐藤忠良 // 画 福音館書店



おじさんがうえたかぶは、とてつもなくおおきくそだちました。ぬこうとしてもびくともしません。おじさんはおばあさんをよんで、いっしょに「うんとこしょどっこいしょ」「それでもかぶはぬけません」。ぶじにかぶをぬくことはできるでしょうか？

「まちにはいろいろなかおがいて」

佐々木マキ // 文・写真 福音館書店



しんごうのところにあるおしボタン、おや？かおだ！マンホール、ポスト、たてもの…。あっちこっちにかおがいる。てくてくあるいていくと、いろいろなかおにであえるよ。

「どんなにきみがすきだか あててごらん」

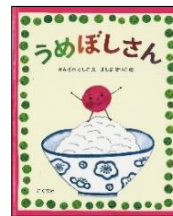
サム・マクブラットニー // ぶん アニタ・ジェラーム // え 小川仁央 // やく 評論社



「どんなに、きみがすきだかあててごらん」とチビウサギがききました。デカウサギにはわかりません。「こんなにさ」チビウサギはうでをおもいきりのばします。するとデカウサギは…？

「うめぼしさん」

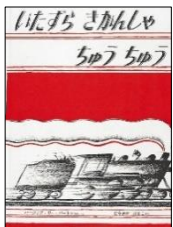
かんざわとしこ // 文 ましませつこ // 絵 こぐま社



うめぼしができるまで。「ごはんとなかよいうめぼしさん」ことばのリズムもたのしんで。あらあら、つばがわいてくる～。

「いたずらきかんしゃ ちゅうちゅう」

バージニア・リー・バートン // ぶん/え むらおか はなこ // やく 福音館書店



「ちゅうちゅう」は、みんなからかわいがられているちいさなきかんしゃです。でもあるとき、もつとはやくはしりたくなって…。ちゅうちゅうは、ぶじにかえてこられるでしょうか。

「しんせつなともだち」

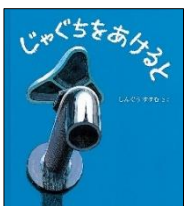
方 軼羣 // 作 君島久子 // 訳 村山知義 // 画 福音館書店



ゆきのふるあるひ、こうさがたべものをさがしているとかぶがふたつみつかりました。ひとつはたべ、もうひとつはろばのもとへとどけますがるすのよう。こうさはかぶをおいてかえりますが…。さむいふゆの、こころがあたたかなるおはなしです。

「じゃぐちをあけると」

しんごう すすむ // さく 福音館書店



じゃぐちをあけると、「みずがでる」。さわると？ たたくと？ コップにあてると？ みずが、いろいろなかたちになります。さいごは「じゃぐちをしめてはいおしまい」。

「タンタンのハンカチ」

いわむらかずお // 作 偕成社



タンタンのおしゃれなあかいハンカチ、おまじないすると…。つぎはなににへんしんできるかな？

※対象年齢は目安です

